

就労体験を通じて自己肯定感を高め、主体的に物事に取り組む姿勢を培う

会社訪問とその報告会を通じて勤労意欲を高める取り組み

岡山県倉敷市立工業高等学校

〒710-0831
岡山県倉敷市田ノ上716-1

<http://www.kurashiki-oky.ed.jp/school/kogyo-h/>

1. 研究の背景

本校には、中学校在籍時まで不登校を経験した生徒や、特別な支援の必要な生徒、全日制の学校に通学していたが何らかの理由で中退をした生徒、中学校卒業後社会人として働いているが、高校で学ぶことや高校卒業の必要性を感じたものなど、多様な生徒が在籍をしています。その多くの生徒が学力や現在の自分自身に、そして将来の自分に大きな不安を抱えています。そこで、「授業(喜びを知る)」「自主(自主的な活動を通して自己肯定感を醸成)」「進路(将来に思いを巡らせる)」を本校の学校経営目標の中心テーマとして掲げています。さらに、完全夜間定時制である本校の特徴を活かして、昼間何らかの仕事に就こう、そして、全日制の生徒にはできない本校独自の方法、「働きかつ学ぶ！」高校生として頑張ることにプライドを持つと呼びかけています。

その様な状況の中で、平成24年度の9月時点における本校生徒の就労率は約60%である。

しかし、1、2年生といった低学年は就労率が低い傾向にある。生徒の中には、経済的にも恵まれない家庭が多く、中には学校の諸会費の納入が滞り、やむを得ず学校を去っていく生徒もいる。また、生徒の一部には昼夜逆転した生活を送ってきた生徒もおり、そのような生徒が朝昼の時間を有効に使い、生活のリズムを取り戻す取り組みが本校には必要であると考えている。

2. 研究の目的

研究の目的は以下の三点である。

第一点目は、生徒の就労率を高め、就労体験を通じて幅広い世代の人たちとの交流を通じて多様な価値観や考え方を身につけさせること。

第二点目は、生徒は在校生や卒業生の勤務先に訪問することにより、在校生と在校生、在校生と卒業生のつながりを強めてゆくこと。加えて、会社訪問報告会に参加しICT機器を活用することを通じて情報格差に対応するためのスキルを身につけること。

第三点目に、生徒は就労を通じて社会から評価されることにより自己肯定感を高めることができ、学校生活を送る上でも、生徒が主体的に物事に取り組む姿勢につながる。

3. 研究の方法

1年生を対象にLHRの時間に先輩からの職場体験などを聞く機会を持つ。その後、グループに分かれ現在の生徒のアルバイト先や卒業生の就職先などの職場調べる（必要に応じてタブレットPCを

活用)。7月11～18日のオープン週間（生徒が主体的に課題を見つけて学習活動に取り組む期間）に職場訪問を行う。その後職業安定所と連絡を取り生徒への情報提供を行いながら、未就労の生徒に対し就労に取り組むように支援する。9月に会社訪問についての報告会を行う。

以上のような、情報提供→職場調べ→職場訪問→報告会→就業にチャレンジというサイクルを繰り返すことで、就労意欲の向上さらには就労へとつなげてゆく。

4. 研究の内容・経過

パナソニック財団研究助成 実施概要

月	行 事	目 的	内 容
4月 16日	第1回担当者会議 (教員)	4～5月の実施計画	① 業生の働く姿プレゼン ② 就労状況調査 ③ 2年生からの話 ④ 第1回会社見学
17日	新入生オリエンテーション週間(生徒)	先輩の働く姿を見る	パワーポイントによるプレゼンを見る
4月	就労状況調査(生徒)	生徒の就労状況を知る	現在の就職場所・職種など
5月 8日	第2回担当者会議 (教員)	就労について語る会の実施について	実施計画確認 2名の先輩から仕事についての話を聞く(電気科、機械科各1名)
14日	2年生の先輩からの話 (生徒)	就労について語る会 企業現場を見ることにより、職業に関する理解を深める。	会社見学先の希望調査(1年生全員対象) 全員同じ会社を訪問
5月中旬	第1回1年生会社見学案内 (教員)	第1回会社見学について求人票をもとに会社調べ	会社見学先希望調査 会社見学までの日程について 学習プリントの完成
27日 28日	第3回担当者会議(教員) 1年LHR事前学習(生徒)		
6月上旬	第1回1年生会社見学先決定 (教員)		JFE スチール(株) 、西日本製鉄所、水島プレス株式会社に決定
10日	第4回担当者会議(教員)	会社訪問に向けて	事前学習 LHR 会社訪問注意事項
下旬	職場訪問(2～4年担任)	6月を中心に職場訪問を行い。生徒の実態を把握する。 1年生の職場見学の可能性を聞く。	経費は倉敷市の補助金を利用する。 一回1,300円(一度に2社可) 70回可
27日	第5回担当者会議	会社訪問に向けて	7月2日 LHR について 会社訪問のしおりについて

7月 2日	会社見学先の調べ学習 (LHR) 	自ら調べることにより 理解を深める。 会社訪問最終打合わせ 就労意識を高める	i-Pad を活用しての調べ学習
9日 11日	第6回担当者会議 会社見学 アルバイト情報の提供		最終確認および生徒報告書 JFE スチール(株)、西日本製鉄所、 水島プレス株式会社 経費は助成金活用
8月 30日	アルバイト体験 第7回担当者会議	会社訪問報告会	アルバイト 報告会実施案検討
9月 3日 中旬 25日 9月 下旬	会社訪問報告会  就労状況調査 第8回担当者会議 第2回1年生会社見学計画	会社訪問で得たことを 他の人たちに伝える 第2回1年生会社見学	自身の作成したレポートをもとに 班別で発表 見学実施計画検討 就業していない生徒を中心とした 会社見学を実施する。
10月 23日	会社見学会（電気科） 第9回担当者会議	学校が主体になり見学先 の決定（対象1～3年全 員） 今後の実施計画	新成羽ダム見学 （経費は倉敷市補助金、生徒個人徴 収金で充てる） 3学期からの計画について
1月 28日	先輩を囲む会 	就労意識を高める	就労について卒業生からの話を聞く
3月	1年間の振り返り	まとめ	報告書作成

5. 研究の成果

研究の目的とした以下の三点に関して次のような成果が得られたと考える。

第一点目の、生徒の就労率を高め、就労体験を通じて幅広い世代の人たちとの交流を通じて多様な価値観や考え方を身につけさせることに関しては、1年生の昨年度3学期における就労率は約33%であったが、今年度は3学期における就労率が約50%、就労はしていないが残りの約50%の生徒も就労活動を行う意思を示していることが就労希望調査から認められ、学年全体に就労意欲の向上が見られた。

第二点目の、在校生や卒業生の勤務先に訪問することにより、在校生と在校生、在校生と卒業生のつなが

りを強めてゆくこと、加えて、会社訪問報告会に参加しICT機器を活用することを通じて情報格差に対応するためのスキルを身につけることに関しては、1年生は7月に地元の企業に会社訪問を実施し、その後9月に会社訪問報告会を行い、中学校時代は人前で発言することがとても苦手であった生徒もきちんと人前で発言をすることができた。

また、1月には卒業生を迎え3年生を対象に講演会を行った。卒業生の真剣に仕事に打ち込む想いを聞いて、在校生は自分自身の将来へ思いを巡らせる大切な機会を持つことができた。

第三点目の、生徒が就労を通じて社会から評価されることにより自己肯定感を高めることができ、学校生活を送る上でも生徒が主体的に物事に取り組む姿勢につながることは、中学校時代長期欠席者だった生徒も、就労を通じて自身の労働の対価としての賃金を受け取り、職場でも時間を守ることやあいさつを行うといった社会で不可欠な能力が高まり、そのことが学校生活を円滑に行うことができる効果を生んできている。その結果、就労を通じて生徒自身が自信を付け学校生活の安定につながる効果が認められた。

6. 今後の課題・展望

1年生の就労率は昨年度に比べ約20%上昇したが、就労に必ずしも向いてない生徒も本校には少なからずいるため、生徒個人の特徴をよく考え、生徒に大きなストレスをかけないように、生徒の成長・発達の段階をよく見極めて就労を進めてゆく必要がある。無理やりに就労することで、生徒が失敗経験を心に残し、目指すべき自己肯定感の育成と反対の結果になることもあるので、その点は十分慎重に考えてゆきたい。また、このたびの助成においてタブレットPCを10台購入し、教員研修や授業での活用を目指したが、そのすそ野は一部の人たちに限られ、学校全体への広がりは見られなかった。今後は、授業内でICTの活用を先進校視察なども参考にしてさらに広げてゆきたい。

7. おわりに

本校の最大の特徴と長所は「働きかつ学ぶ学校」であるという点である。この本校の誇るべき長所が最大限に発揮できるように、今後ともできるだけ多くの生徒が就労を通じて大きく成長できるように手助けをしてゆきたいと考える。